

1. 日時 2021年9月22日(水) 19時~20時30分

2. 方法 Zoomによるオンライン会議

3. 参加者 16名

4. 内容 授業構想の検討

「PALLET HOUSE JAPANを教材として」 奈良市立伏見小学校 圓山裕史先生

前回の研修時に大西が紹介した「PALLET HOUSE JAPAN」を題材に、どんな授業を展開できるか、圓山先生から提案があり、全員で検討を行った。

PALLET HOUSE JAPAN



PALLET HOUSE JAPAN は 2014年3月11日東大阪市に発足。

関西の若いクリエイターや職人、デザイナーが大阪市の小さな町工場に集まり、関西の産業から出る木製廃パレットや建築足場古材を【ユニークな発想】【大胆なDESIGN】【本格家具製造技術】でヴィンテージ系デザイナーズ家具に。



『誰もやらない、誰もやれない』それを承知で世界的インテリアブランドを目指す！

最近ではそのコンセプトとEcoなデザインが評判を呼び、一般消費者向けだけでなく、飲食店やアパレル店舗、オフィスや中古住宅のリノベーションなど多方面に関わる。

(公式HPより)

倉庫や運送などで使われるパレットは、これまで古くなったものは捨てられるしかなかった。これを買取り、解体し、新たな家具として再生して販売しているのがPALLET HOUSE JAPANである。

SDG9、12に関連して、この会社の取り組みを題材にして授業化できないか、検討した。

- ・パレットの写真と完成した家具の写真を同時に見せることで、興味・関心を持たせることができるのではないかな。
- ・導入で子どもに課題意識を十分持たせたい。そのために、「本来捨てられるものが素晴らしいものに生まれ変わる」というところに、スポットを当てていきたい。
- ・私たちの身の回りにもそういうものがないか、探してみるとよいのでは。
- ・木材の利用ということでは、森林資源の学習とタイアップできる。
- ・ヴィンテージ系の一点ものがゆえに、価格が張る。それでも購入した人は、「なぜこの家具を買ったのか」というところを追究していくところに価値があるように思う。
- ・持続可能な社会づくりへの一番の行動は、私たちの消費行動である。その観点からも、この家具を購入した人の思いや願いに触れさせることはとてもよいと思う。



↓
堆肥化

PALLET HOUSE JAPAN では、加工時に大量に出るおがくずを府内の畜産業者に持って行って牛舎の下敷きに活用し、さらに古くなったものは堆肥化して農地に投入している。畜産業者の方も下敷きを安く購入でき、堆肥化することで循環するシステムが確立している。

- ・企業として、おがくずさえ無駄にせず地球環境に配慮した取り組みを行っているところの素晴らしさにも気付かせたい。
- ・社会全体で持続可能な社会を目指すことの大切さを学べる教材だと思う。
(会社も、家庭でも、とにかく一人一人が環境によいことをやることの重要性)
- ・こういう企業は、きっと他にも、どこの地域でもたくさんあると思う。汎用性のある学習になる。
- ・最近では企業がさかんに SDGs についてアピールしているが、本当に実のある活動をしているのかは疑わしいところもある。この会社のようなことんこだわってやっているというものは大切にしたい。